令和6年度　　昭島市立拝島第二小学校　　学校経営重点計画（教育推進計画）年度末評価【総括表】

学校教育目標	○よく考える子（知） ○心ゆたかな子（情） ○元気な子（意）（体）	ビジョン	【目指す学校像】	○「子供の成長」を教育活動の中核に置き、連携・協働する学校　○「チーム」一丸で教育活動を推進する学校
			【目指す児童・生徒像】	○自らの人生（運命）を自らの力で切り拓き、これからの社会の創造を担える児童～グローバルに考え、ローカルに実践する子～
			【目指す教師像】	○「チーム拝二」の一員として、自らすすんで学び、高め合い、協働して職務を遂行する教師　○子供のよさや可能性を伸ばせる教師集団

領域	中期経営目標（3年間）	短期経営目標（1年間）	具体的方策	取組指標	評価	成果指標	評価	自己評価結果の分析	学校関係者評価	評価	次年度への改善策
確かな学力	（知） 自ら学び考え判断し、協働して問題を解決することができる児童の育成	日々の授業を充実させ、全国学力・学習状況調査の平均正答率の引き上げを図る。	「拝二小授業力スタンダード20ver.4」を基に、児童が自身の学びの成果を実感できるように指導する。	4 8割以上の教職員が、「授業カスタンダード」に基づく指導を行った。 3 7割以上の教職員が、「授業カスタンダード」に基づく指導を行った。 2 6割以上の教職員が、「授業カスタンダード」に基づく指導を行った。 1 6割未満の教職員が、「授業カスタンダード」に基づく指導を行った。	4	4 学力調査の平均正答率が国比0P 3 学力調査の平均正答率が国比−1P 2 学力調査の平均正答率が国比−2P 1 学力調査の平均正答率が都比−3P	4	「拝二小授業力スタンダードver.4」を基に全教員が授業を実施した（94%）。6年生対象の全国学力・学習状況調査において、本校児童の平均正答率は、国語が74%（全国67.7%）、算数が66%（全国63.4%）だった。	国語、算数共に全国平均を上回っており、取組が成果として表れている。	A	拝島二小の全学年に共通している課題として、学力の二極化が挙げられる。引き続き、授業改善、朝学習の取組や家庭学習の習慣化などに力を入れ、確かな学力を定着させる必要がある。
		言葉の力で獲得した知識を生かして自分の思いを論理的に表現できる児童を育成する。	指導計画のPDCAサイクル化を図り、児童が考えを深め、表現する場を意図的・計画的に設定する。	4 8割以上の教職員が、児童が考えを深める表現する場の設定を計画的に行った。 3 7割以上の教職員が、児童が考えを深める表現する場の設定を計画的に行った。 2 6割以上の教職員が、児童が考えを深める表現する場の設定を計画的に行った。 1 6割未満の教職員が、児童が考えを深める表現する場の設定を計画的に行った。	4	4 「思考・判断・表現」の評価B以上70%以上 3 「思考・判断・表現」の評価B以上60%以上 2 「思考・判断・表現」の評価B以上50%以上 1 「思考・判断・表現」の評価B以上50%未満	4	「拝二小授業力スタンダードver.4」を基に授業を実施する中で、全教員が意識して、児童が考えを深め表現する場の設定を行ってきた（89.4%）。朝学習も校内で統一し、継続して取り組む中で、その成果が表れつつある。	高ポイントでの結果が出ている。	A	今後も児童が考えを深め、表現する場の設定をはじめ、10チャレや文章表現の学習など、各学年に応じた適切な指導を授業全般を通して実践していく。
		学んだことを日常生活に生かしたり、自分の周りの社会に役立てたりしようとする児童を育成する。	昭島市民科、各教科、特別活動、「特別の教科　道徳」を中心に、教育活動全体を通して児童がセルフモニタリング及びセルフコントロールする場を設定する。	4 8割以上の教職員が、授業実践における振り返りを行った。 3 7割以上の教職員が、授業実践における振り返りを行った。 2 6割以上の教職員が、授業実践における振り返りを行った。 1 6割未満の教職員が、授業実践における振り返りを行った。	4	4 授業で学んだことを生活や社会に生かそうとする児童70%以上 3 授業で学んだことを生活や社会に生かそうとする児童60%以上 2 授業で学んだことを生活や社会に生かそうとする児童50%以上 1 授業で学んだことを生活や社会に生かそうとする児童50%未満	4	全教職員が丰に学びのスパイラルや、その中の学習感想において「授業で学んだことを生活に生かす」ことを意図的に指導してきた。しかし、成果指標は74.7%であり、更に新たな取組を考えていく必要がある。	引き続き、取り組んでいくことを希望します。	A	児童が学んだことを、いかに生活に生かすのかを、各教科、特別活動、特別の教科道徳を通して指導していく。更に、「学習の振り返り」の時間を確保し、セルフモニタリング、セルフコントロールする力を育成する。
豊かな心	（情） 自らの良さを見つめ、他者を尊重し、共により良く生きようとする児童の育成	不登校児童を減らし、全ての児童が安心して登校できる学校にする。	①不登校アセスメントの実施②「のびのびルーム」の効果的な活用③温かい学級づくりによる不登校の未然防止	4 8割以上の教職員が、不登校対策に取り組んだ。 3 7割以上の教職員が、不登校対策に取り組んだ。 2 6割以上の教職員が、不登校対策に取り組んだ。 1 6割未満の教職員が、不登校対策に取り組んだ。	4	4 不登校の出現回数2割減少 3 不登校の出現回数1割減少 2 不登校の出現回数増減なし 1 不登校の出現回数増加	2	学校いじめ対策委員会、不登校対策委員会を毎月開き、個別の案件にきめ細かく検討・対応しているが、家庭的な問題もあり、すぐには解決に至らない案件が多い。しかし、のびのびルームの活用などで改善も見られている。	学校対応だけでは、限界がある。学びの機会の充実を図ってください。場所も確保してください。中学とも連携をお願いします。	B	不登校児童に対してはオンライン授業の実施や「のびのびルーム」の利用などを勧め、継続して、児童と社会のつながりが断たれることのないように全教職員で取り組んでいく。
		学校生活を自ら創り上げる児童を育成する。	「拝二小学級力スタンダードver.2」を基に、児童自らが学校生活を築けるようにする。児童会選挙を実施する。	4 8割以上の教職員が、「学級力スタンダード」に基づく指導を行った。 3 7割以上の教職員が、「学級力スタンダード」に基づく指導を行った。 2 6割以上の教職員が、「学級力スタンダード」に基づく指導を行った。 1 6割未満の教職員が、「学級力スタンダード」に基づく指導を行った。	4	4 自分たちで学級・学校を創っていると感じる児童70%以上 3 自分たちで学級・学校を創っていると感じる児童60%以上 2 自分たちで学級・学校を創っていると感じる児童50%以上 1 自分たちで学級・学校を創っていると感じる児童50%未満	4	学級では、「学級力スタンダードver.2」を活用し、差章が課題を見いだし、改善する機会を設け、各行事では、実行委員会を設置し、児童が中心となって活躍する機会を設けてきた。その成果が表れている（70.1%）。	引き続きの取組をお願いします。	A	今後も、左記の取組を継続するとともに、行事や学校生活の中で児童が活躍する場を設け、更なる児童中心の学校づくりを進めていく。
		学校の決まりを守る風土を創り上げる。	学校の決まりの意味・意義を理解させ、守らせる。	4 8割以上の教職員が共通理解をもって、生活指導に取り組んだ。 3 7割以上の教職員が共通理解をもって、生活指導に取り組んだ。 2 6割以上の教職員が共通理解をもって、生活指導に取り組んだ。 1 6割未満の教職員が共通理解をもって、生活指導に取り組んだ。	4	4 学校のきまりを守っていると実感する児童70%以上 3 学校のきまりを守っていると実感する児童60%以上 2 学校のきまりを守っていると実感する児童50%以上 1 学校のきまりを守っていると実感する児童50%未満	4	年度や学期の初めにおいて全校で統一した「学校のきまり」を児童に指導している。また、問題行動が見られた際においても、教員が共通理解をもって、決まりの意味や意義を児童に説いている。	成果が出ているので、引き続きの取組をお願いします。	A	教職員と児童とで、決まりの意味を考えるだけでなく、児童会や児童相互でお互いが過ごしやすい学校を創り上げていくことができるように、更に上を目指し、指導をしていく。
健やかな体	（体） 自らすすんで心と体をきたえ、たくましく生きる児童の育成	日々の授業の充実を基に、体育の授業が好きな児童を増やす。	「拝二小授業力スタンダード体育編ver.2」を共通実践し、体育科の授業の充実を図る。コオーディネーショントレーニングの活用を図る。	4 8割以上の教職員が、「授業カスタンダード体育編」に基づく指導を行った。 3 7割以上の教職員が、「授業カスタンダード体育編」に基づく指導を行った。 2 6割以上の教職員が、「授業カスタンダード体育編」に基づく指導を行った。 1 6割未満の教職員が、「授業カスタンダード体育編」に基づく指導を行った。	3	4 運動が好きになったと実感できる児童70%以上 3 運動が好きになったと実感できる児童60%以上 2 運動が好きになったと実感できる児童50%以上 1 運動が好きになったと実感できる児童50%未満	4	「拝二小授業力スタンダード体育編ver.2」を基に全教員が授業を実施してきた。成果は表れているが、（80.2%）コオーディネーショントレーニングについては、取組を更に充実させていく必要がある。	取組の成果は表れている。継続して取り組んでいってください。	A	まずは教員がコオーディネーショントレーニングを習得するために、研修を実施するなど、共通理解を図る。体育の授業に浸透させていくために拝二小版授業力スタンダード体育編ver.2の共通実践を進めていく。
		児童の課題に応じた様々な運動に親しませる場を設定し、運動能力の向上を図る。	体力調査）の結果に基づく課題分析・解決策の共通理解と共通実践をする。体力向上旬間を設定する。	4 8割以上の教職員が、体力向上のための取組を実施した。 3 7割以上の教職員が、体力向上のための取組を実施した。 2 6割以上の教職員が、体力向上のための取組を実施した。 1 6割未満の教職員が、体力向上のための取組を実施した。	3	4 Tスコアを都平均以上にする。 3 Tスコアを都平均にする。 2 Tスコアを都平均より−1%にとどめる。 1 Tスコアを都平均より−2%にとどめる。	4	Tスコアは、ほとんどの学年で都平均を上回った。体力テストの振り返りや、体育科の授業実践などの取組が結果につながっていると考えられるが、取組指標の結果から、まだ改善の余地がある。	体力テストで良い結果が出ているので、引き続き充実した取組を期待します。	A	今までの取組が結果に結びついているため、取組を継続させると共に、体力調査の結果による課題分析、解決策の実施など、体育部を中心に更なる工夫改善をしていく。
		家庭と連携して、児童の基本的な生活習慣の向上を目指す。	「元気アップガイドブック」を計画的に活用し、児童自身が生活改善の大切さを意識し実感できるようにする。	4 8割以上の児童が、「元気アップガイドブック」を計画的に活用した。 3 7割以上の児童が、「元気アップガイドブック」を計画的に活用した。 2 6割以上の児童が、「元気アップガイドブック」を計画的に活用した。 1 6割未満の児童が、「元気アップガイドブック」を計画的に活用した。	3	4 生活改善を実感する児童70%以上 3 生活改善を実感する児童60%以上 2 生活改善を実感する児童50%以上 1 生活改善を実感する児童50%未満	3	結果より「元気アップガイドブック」の取組は、全教職員に浸透しているとは言えない（68.4%）。また、生活改善を実感している児童もあと一歩目標に届いていない。（69.1%）。	継続して取り組んでいくことを希望します。	B	保健部の「すっきりカード」と体育部の「元気アップカード」を活用して生活習慣の改善を呼びかけ、保護者の協力も得ながら推進していく。
輝く未来	（意） 自らすすんで挑戦し、最後までやり遂げることができる児童の育成	昭島市民科や各教科等の充実を図り、地域を担う市民としての愛着を育てる。	地域に根差した昭島市民科や各教科等の授業を展開する。	4 8割以上の教職員が、市民科の授業実践に取り組んだ。 3 7割以上の教職員が、市民科の授業実践に取り組んだ。 2 6割以上の教職員が、市民科の授業実践に取り組んだ。 1 6割未満の教職員が、市民科の授業実践に取り組んだ。	4	4 地域に愛着をもつ児童70%以上 3 地域に愛着をもつ児童60%以上 2 地域に愛着をもつ児童50%以上 1 地域に愛着をもつ児童50%未満	4	本校児童の地域に対する愛着は、校内アンケート87.7%で、強いことが分かっている。また、教職員も昭島市民科や生活科を通して、地域に根ざした授業展開や学習内容を設定しており、そのことも要因であると考えられる。	引き続き、地域に愛着をもつ児童が増えるような取組を継続してください。	A	昭島市民科の授業実践が、さらに定着するように、本校ではその学習の成果を発表する機会を設けている。その取組を今後も継続していく。
		●SDGsの達成のために社会を変革する主体者として、家庭生活から変えていこうとする態度を育てる。 ●地域人材を活用し、人との関わりの中で学ぶ機会を充実させる。	●SDGsの達成のために、家庭生活を実際に改善しようと行動に移すことができる児童を育成する。 ●地域人材を活用した体験活動を実施し、社会貢献しようと考える児童を育成する。	4 8割以上の教職員が、地域人材を活用した体験活動を実施した。 3 7割以上の教職員が、地域人材を活用した体験活動を実施した。 2 6割以上の教職員が、地域人材を活用した体験活動を実施した。 1 6割未満の教職員が、地域人材を活用した体験活動を実施した。	4	4 社会貢献しようと考える児童70%以上 3 社会貢献をしようと考える児童60%以上 2 社会貢献をしようと考える児童50%以上 1 社会貢献をしようと考える児童50%未満	4	「地域や社会をよりよくするために、何をすべきか考えている」と答えた児童が第6学年で約8割いた。昭島市民科の学習で、社会をより良い方向に変えていくような学習内容を設定した成果と考えられる。	取組の結果が成果として表れている。	A	昭島市民科の学習において、児童の考えが地域貢献に結びつくところまで育つように、更に学習計画を見直し改善していく。
		体験活動を充実させ、社会の多様な課題への関心・意欲を高める。	昭島市版「キャリアルバム」を活用して、児童が自らの将来に、夢をもてるように指導する。	4 8割以上の教職員が、キャリアルバムを活用した指導を行った。 3 7割以上の教職員が、キャリアルバムを活用した指導を行った。 2 6割以上の教職員が、キャリアルバムを活用した指導を行った。 1 6割未満の教職員が、キャリアルバムを活用した指導を行った。	4	4 将来への夢や希望がもてたと実感できる児童80%以上 3 将来への夢や希望がもてたと実感できる児童60%以上 2 将来への夢や希望がもてたと実感できる児童50%以上 1 将来への夢や希望がもてたと実感できる児童50%未満	3	「キャリアルバム」の活用は十分に行ったが（100%）、成果指標において、「将来への夢や希望をもっている」と答える児童の割合は72.3%と開きがあった。更なる取組の検討が必要である。	継続して取り組んでいくことを希望します。	A	児童が将来に対して、より夢や希望がもてるよう、家庭と学校での連携の在り方を検討する。また、キャリアルバム以外にも、キャリア教育などを充実させていく必要がある。